（別記）

令和８年度野田村地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

野田村は、岩手県沿岸北部に位置し、総面積の約８割を山林原野が占め、平坦地に恵まれないこと、ヤマセなどの気象条件が特異であることから、水稲を中心とする耕種作物全般にわたり生産性が低い状況にある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家の負担軽減に資する生産コスト低減や低コスト技術導入の必要性が高まっている。しかし、高齢の農家では、最新の情報通信技術を使った技術導入には抵抗のある農家が多い。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

野田村の農地・気候特性として、平坦地が少ないこと、ヤマセによる影響を受けることから、他地域と比べると主食用米を中心とした水田農業の収益性は低い状況にある。

一方で、村特産品である「南部福来豚」の肥育施設をはじめ、近隣に大規模な牧場があるため、それらの施設における飼料としての WCS、飼料用米の需要は多いものと思われる。その他、ピーマンやブロッコリー等が、地域や JA の取り組みにより、近年拡大傾向にある。

持続的な水田農業の展開のために、上記の品目の生産量を拡大させ、地産地消、たい肥還元による収益性のある循環型耕畜連携及び高収益作物の導入推進及び定着させることを目標とする。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

区画整理された区域やまとまった圃場については意欲ある担い手への集積を推進し、比較的管理や収穫作業が容易な WCS 等への転換を図り、継続的な水田活用を図る。

小規模農地や集積困難な散在農地については、GIS にて確認を行うほか、地域農業計画を通した作物転換を図る。

また、過去５年間水稲の作付けを行わず、畑作物のみの生産を行っている農家については、聞き取り、現地確認等によって水稲の作付け意向の確認を行う。結果、畦畔・用水路の撤去を行う予定のある農地、水稲の作付けを行う意向のない農地等、水稲の作付けが見込まれない農地は、畑地化支援を活用し、畑地化へと誘導するほか、担い手への集積を推進する。

その一方で、水稲の作付け意向がある農地は、地域の需要に応じたＷＣＳ・飼料用米の生産へ産地交付金等により誘導し、畑作物とのブロックローテーションの構築を行う。

４　作物ごとの取組方針等

村内の約 80ha の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

（１）主食用米

需要に応じた生産数量を確保するとともに、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘

案しつつ、主食用米の生産を行う。

（２）備蓄米
　備蓄米については、契約数量に応じた生産に取組む。

（３）非主食用米
ア　飼料用米
　飼料用米を転作作物の中心作物に位置付けるとともに、引き続き飼料メーカー（養鶏・豚）（東北）並びに JA との結びつきに基づき生産拡大を行う。生産の拡大にあたっては、産地交付金を活用した多収品種導入を引き続き推進し、飼料用米の単収の向上を目指す。併せて一定規模の利用集積に対して、産地交付金を活用し担い手への集積、団地化等低コスト生産を推進していく。

イ　米粉用米
　作付及びその見込みがないことから、現状では取組について想定していない。

ウ　新市場開拓用米
　作付及びその見込みがないことから、現状では取組について想定していない。

エ　WCS 用稲
　近年の飼料高騰による需要の増加に対応していくため、担い手への集積による低コスト生産を推進するほか、需要に応じた作付けをできるよう支援していく。

オ　加工用米
　作付及びその見込みがないことから、現状では取組について想定していない。

（４）麦、大豆、飼料作物
　麦、大豆については、地域の実需者との契約に基づき、不作付水田等を担い手へ集積により、作付面積を拡大する。飼料作物については、地域の実需者との契約及び自家利用の計画に基づき、安定した生産、供給を図り、自給飼料の生産を推進する。

（５）そば、なたね
　作付およびその見込みがないことから、現状では取組について想定していない。

（６）地力増進作物
　作付及びその見込みがないことから、現状では取組について想定していない。

（７）高収益作物
　りんどうについては、農業者の所得を確保するため、地域振興作物としてこれまで産地化に向けて取り組んでいたところであるが、作付面積は減少傾向にある。それに代わる高収益作物としてピーマン、ブロッコリーを、新たに地域振興作物に位置づけ、産地交付金を活用し、拡大及び経営安定に向けてさらに支援を強化していく。
　また、振興作物助成の対象作物にカモミールを追加し、より多様な作物への支援を目指す。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	55.6		57.4		57.4	
備蓄米						
飼料用米	15		14.3		14.3	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	0		0		0	
WCS用稲	6.9		5.8		5.8	
加工用米	0		0		0	
麦	0.6		0.6		0.6	
大豆	0.2		0.2		0.2	
飼料作物	0		0		0	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	0		0		0	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	0		0		0	
高収益作物	1.7		1.7		1.7	
・野菜	1.5		1.5		1.5	
ほうれん草	0.3		0.3		0.3	
きゅうり	0.2		0.2		0.2	
だいこん	0.1		0.1		0.1	
しいたけ	0.1		0.1		0.1	
ねぎ	0.1		0.1		0.1	
ブロッコリー	0.6		0.6		0.6	
ピーマン	0.1		0.1		0.1	
・花き・花木	0.2		0.2		0.2	
りんどう	0.1		0.1		0.1	
菊類	0.1		0.1		0.1	
・果樹	0		0		0	
その他(雑穀)	0		0		0	
畑地化	0.2		0		0	

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米、 ＷＣＳ用稲	利用集積助成	飼料用米 利用集積面積 担い手への集積率	(令和７年度)8.4ha (令和７年度)56.6%	(令和８年度)12.4ha (令和８年度)82.0%
			ＷＣＳ用稲 利用集積面積 担い手への集積率	(令和７年度)6.3ha (令和７年度)91.3%	(令和８年度)6.4ha (令和８年度)95.0%
2	りんどう、ピーマン、 ブロッコリー	地域振興作物助成	作付面積	(令和７年度)0.1ha	(令和８年度)1.0ha
3	野菜、花き、雑穀	振興作物助成	作付面積	(令和７年度)1.4ha	(令和８年度)1.1ha
4	麦、大豆	担い手助成	担い手による作付面積 不作付水田の面積	(令和７年度)0.7ha (令和７年度)11.3ha	(令和８年度)0.8ha (令和８年度)11.0ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：岩手県

協議会名：野田村農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	利用集積助成	1	15,000	飼料用米・WCS用稲	多収性品種、飼料用米2ha、WCS3ha、認定農業者
2	地域振興作物助成	1	45,000	りんどう、ピーマン、ブロッコリー	出荷販売を行う。
3	振興作物助成	1	32,000	野菜、花き、雑穀	出荷販売を行う。
4	担い手助成	1	15,000	麦・大豆	出荷販売を行う。認定農業者

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

（別紙１）

振興作物助成対象作物一覧

区分	作物名
野菜	なす
	いちご※
	すいか
	きゅうり
	はくさい
	ほうれんそう
	レタス
	だいこん
	さといも
	れんこん
	しょうが
	青さやいんげん
	スイートコーン
	甘しょ（食用品種）
	しいたけ
	とうがらし
	オクラ
	セロリ
	カリフラワー
	ごぼう
	春菊
	ナガイモ
	自然薯
	フキ※
	ニラ
	ワラビ※
	シドケ
	ウルイ※
	ウド※
	わさび※
	かぼちゃ
	マコモダケ
	たらの芽

区分	作物名
花き	ゆり
	トルコキキョウ
	ストック
	きく類（小ぎく、輪ぎく、スプレーぎく）
	カモミール→R8追加
雑穀	きび
	ひえ
	ハトムギ

※は収穫までに複数年かかる作物

※キャベツ、たまねぎ、えだまめ、
にんじん、ばれいしょ、にんにく → H31：県枠へ

※ピーマン、ブロッコリー
→R8：地域振興作物へ